

北海道の畑作をめぐる情勢

令和5年(2023年)11月

北海道農政部生産振興局農産振興課

目次

I	畑作農業をめぐる情勢	1
II	麦類をめぐる情勢	8
III	大豆をめぐる情勢	18
IV	小豆・いんげんをめぐる情勢	24
V	てん菜をめぐる情勢	30
VI	馬鈴しょをめぐる情勢	37
VII	そば・特用作物・薬用作物をめぐる情勢	43
VIII	主要農作物等の種子をめぐる情勢	48
IX	補助事業	56

I 畑作農業をめぐる情勢

1 北海道畑作農業の位置付け

- 北海道は、主要な畑作物の生産量が全国1位となるなど、我が国最大の食料供給地域となっている。
- 北海道の畑作物生産は、農業産出額全体の約15%を占め、北海道農業の主要な部門の一つであるほか、食品加工や流通などの関連産業と結び付き、地域経済・社会の形成に重要な役割を果たしている。

北海道畑作の主要指数（令和4年(2022年)）

区分			単位	北海道①	全国②	①/②
耕地面積	耕地面積	A	ha	1,141,000	4,325,000	26.4
	田		〃	221,600	2,352,000	9.4
	畑(普通畑)	B	〃	418,100	1,123,000	37.2
	構成比	(B/A)		(36.6%)	(26.0%)	-
農業経営体	農業経営体数	C	千経営体	33.0	975.1	3.4
	畑作経営	D (D/C)	〃	7.4(22.4%)	50.4(5.2%)	14.7
	稲作経営	E (E/C)	〃	7.6(23.0%)	485.4(49.8%)	1.6
	園芸経営	F (F/C)	〃	7.3(22.1%)	279.6(28.7%)	2.6
	畜産経営	G (G/C)	〃	6.8(20.6%)	39.5(4.1%)	17.2
基幹的農業従事者数 (個人経営体)			千人	69.3	1,225.5	5.7
農作物収穫量	小麦		千t	614.2 [全国1位]	993.5	61.8
	大豆		〃	108.9 [全国1位]	242.8	44.9
	小豆※		〃	39 [全国1位]	42	93.3
	いんげん※		〃	8 [全国1位]	9	94.8
	馬鈴しょ(春植え)※		〃	1,819 [全国1位]	2,245	81.0
	てん菜		〃	3,545 [全国1位]	3,545	100.0
農業産出額※	農業産出額	I	億円	13,108	88,600	14.8
	畑作物	J (J/I)	〃	2,067(15.8%)	5,613(6.4%)	36.8
	麦類		〃	512	729	70.2
	雑穀・豆類		〃	368	794	48.2
	いも類		〃	722	2,363	30.6
	工芸農作物		〃	465	1,727	26.9
	米	K (K/I)	〃	1,041(7.9%)	13,751(15.5%)	7.6
	園芸	L (L/I)	〃	2,094(16.0%)	21,467(24.2%)	9.8
畜産	M (M/I)	〃	7,652(58.4%)	34,062(38.3%)	22.5	

農業が地域の雇用・経済に果たす役割（畑作地帯A町）



資料：北海道農政部調べ

注1：畑作経営は、農産物販売金額の第1位の部門が「麦類作」、「雑穀・いも類・豆類」及び「工芸農作物」のいずれかである経営体の合計。園芸経営は、同様に「露地野菜」、「施設野菜」及び「果樹類」のいずれかである経営体の合計。畜産経営は、同様に「酪農」及び「肉用牛」のいずれかである経営体の合計
 注2：ばれいしょ、小豆及びいんげんの収穫量は概数。
 注3：農業産出額は令和3年(2021年)の値を記載。

2 農業構造の動向

- 北海道の農業就業人口と農業経営体数が減少傾向にある中、畑作経営体も減少傾向にあり、令和4年（2022年）では、7,400経営体となっている。
- 令和4年（2022年）の耕地面積は114万1,000haで、そのうち畑面積は91万9,900haとなっており、どちらも減少傾向で推移している中で、普通畑は増加傾向で推移。
- 畑で普通作物を作った農業経営体は、20ha以上層の割合が増加しており特に30～50ha規模の割合が大きくなっている。
- 畑地の価格は低下傾向で推移してきたが、令和4年（2022年）は中畑で116千円と横ばい。

■ 基幹的農業従事者数と農業経営体数の推移（北海道）

（単位：千人、千経営体、%）

区分	H22	27	R2	3	4	R4/H22
基幹的農業従事者数	111.3	96.6	70.6	72.1	69.3	62.3
農業経営体数	51.8	40.7	34.9	34.2	33.0	63.7
うち畑作経営（割合）	9.6 (18.6)	8.8 (21.5)	8.1 (23.1)	7.4 (21.6)	7.4 (22.4)	77.1

資料：農林水産省「農林業センサス」、「農業構造動態調査」

注1：平成31年（2019年）までの基幹的農業従事者数は販売農家における調査数値、令和2年（2020年）からは農業経営体（個人経営体）における調査数値

2：畑作経営は、農産物販売金額1位の部門が麦類作、雑穀、いも類、豆類又は工芸農作物である農業経営体の合計

■ 耕地面積の推移（北海道）

（単位：千ha、%）

区分	H22	27	R2	3	4	R4/H22
耕地面積（全国シェア）	1,156.0 (25.2)	1,147.0 (25.5)	1,143.0 (26.1)	1,143.0 (26.3)	1,141.0 (26.4)	98.7
うち田	224.6	223.0	222.0	222.0	221.6	98.7
うち畑	931.7	924.5	921.4	920.7	919.9	98.7
普通畑	414.4	414.9	417.6	417.6	418.1	100.9
樹園地	3.0	2.9	3.0	3.0	3.1	102.0
牧草地	514.3	506.7	500.8	500.0	498.7	97.0

資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

■ 経営規模別農業経営体の推移（北海道）

（単位：経営体、%）

年次	経営体数	5ha未満	5～10ha	10～20ha	20～30ha	30～50ha	50ha以上
H12	49,570	15,162 (30.6)	10,751 (21.7)	11,252 (22.7)	5,961 (12.0)	4,917 (9.9)	1,527 (3.1)
17	35,304	10,058 (28.5)	6,204 (17.6)	7,863 (22.3)	4,899 (13.9)	4,465 (12.6)	1,815 (5.1)
22	30,038	7,455 (24.8)	4,112 (13.7)	6,311 (21.0)	4,624 (15.4)	4,951 (16.5)	2,585 (8.6)
27	23,715	5,617 (23.7)	3,074 (13.0)	5,156 (21.7)	3,937 (16.6)	4,162 (17.5)	1,769 (7.5)

資料：農林水産省「農林業センサス」、「農林業センサス」（経営耕地面積規模別経営耕地の利用状況）

注1：経営体数は畑で普通作物を作った農業経営体数の合計

2：平成12年（2000年）は販売農家の数値、平成17年（2005年）以降は農業経営体の数値

3：（ ）内の数値は経営体数に対する割合

■ 耕作目的の自作地売買価格の推移（北海道）

（単位：千円/10a）

区分	H22	27	R2	3	4	R4/H22
中田	269	266	244	243	239	88.8
中畑	127	127	118	118	116	91.3

資料：（一社）北海道農業会議「田畑売買価格等に関する調査」

注：中田（ちゅうでん）、中畑（ちゅうはた）とは、田や畑の程度が中程度のこと

3 主要な畑作物の生産状況（1）

- 主要な畑作物の作付面積の合計は、近年ほぼ横ばいで推移。令和4年（2022年）は、小麦と大豆及び馬鈴しょが前年と比べて増加した一方で、いんげん、てん菜の作付面積が減少。
- 北海道では、適正な輪作体系の維持を基本としながら畑作農業を展開。地域によって3年輪作又は4年輪作が取り組まれているが、輪作体系の中に露地野菜など新たな作物を導入して輪作年限を伸ばす取組も進んでいる。

■ 作付面積の推移（北海道）

（単位：ha、%）

区分	H22	27	30	R1	2	3	4	目標(R12)
小麦	116,300	122,600	121,400	121,400	122,200	126,100	130,600	[121,000]
二条大麦	2,110	1,640	1,660	1,700	1,760	1,740	1,700	[1,700]
大豆	24,400	33,900	40,100	39,100	38,900	42,000	43,200	[40,000]
小豆	23,200	21,900	19,100	20,900	22,100	19,000	19,100	[22,000]
いんげん	10,800	9,550	6,790	6,340	6,880	6,660	5,780	[7,500]
そば	15,400	20,800	24,400	25,200	25,700	24,300	24,000	[21,000]
馬鈴しょ	54,100	51,000	50,800	49,600	48,100	47,100	48,500	[51,000]
てん菜	62,600	58,800	57,300	56,700	56,800	57,700	55,400	[57,400]

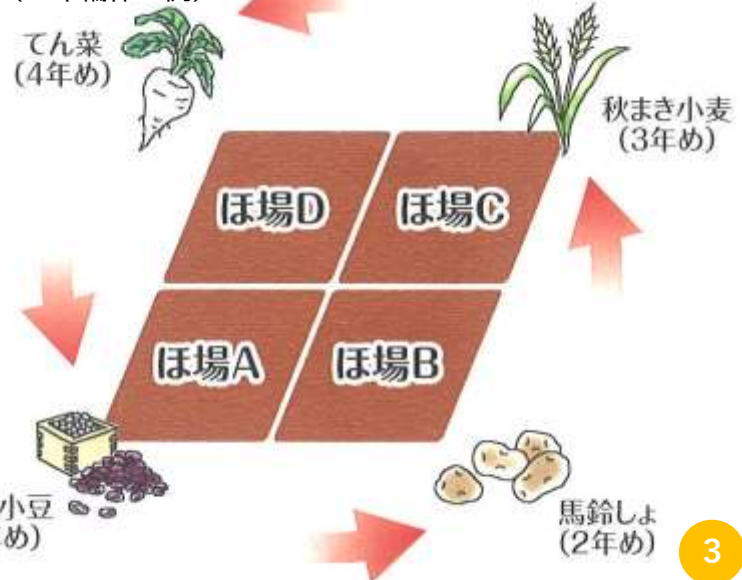
（参考）畑作物の作付指標面積

（単位：ha、%）

区分	R4産			R5	
	指標面積①	実績面積②	②/①	指標面積	
麦類	120,901	124,673	103.1	124,800	
豆類					
	大豆	39,000	40,412	103.6	40,400
	小豆	22,100	19,116	86.5	22,100
菜豆等	7,217	6,036	83.6	7,206	
馬鈴しょ	48,700	45,725	93.9	48,700	
てん菜	57,500	55,182	96.0	55,182	

資料：北海道農協畑作・青果対策本部委員会資料より
 注1：麦類には、秋まき小麦のほか、春まき小麦、大麦を含む
 注2：菜豆等の実績面積には、菜豆、えん豆、黒大豆を含む

◆ 輪作体系（4年輪作の例）

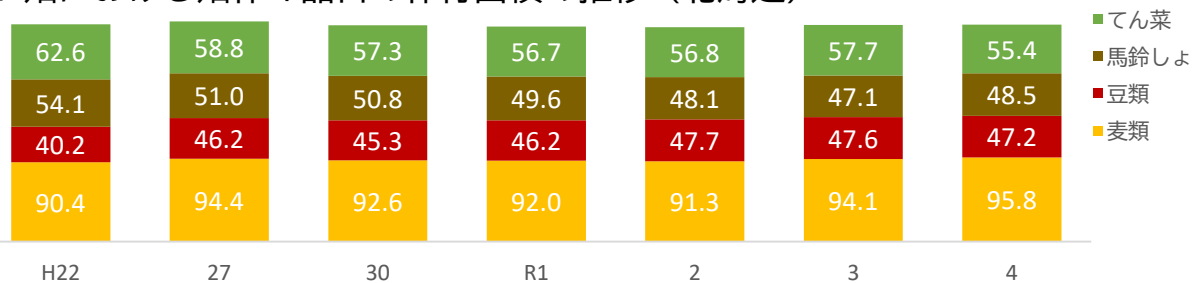


資料：農林水産省「作物統計」、「野菜生産出荷統計」

注1：令和4年（2022年）の馬鈴しょの面積は概数

注2：目標（R12）は、第6期北海道農業・農村振興推進計画の生産努力目標の目標値

■ 畑における畑作4品目の作付面積の推移（北海道）



資料：農林水産省「作物統計」、「野菜生産出荷統計」

注：馬鈴しょとてん菜の作付面積は、田と畑の合計（令和3年（2021年）の馬鈴しょの面積は概数）

3 主要な畑作物の生産状況（2）

○ 10a 当たり収量は気象の影響により大きく変動。令和4年（2022年）の状況は次のとおり。

小 麦：作付面積は増加したものの、登熟期の日照不足や大雨・強風による倒伏の発生等から、10a 当たり収量は470kg。
 平年収量対比91%となった。

大 豆：天候に恵まれたことで生育が順調に進み、10a 当たり収量は252kg。平年収量対比108%となった。

馬鈴しょ：1株当たりの1個重は平年並みだが、上いも数が多かったことにより、10a 当たり収量は3,750kg。平年収量対比104%となった。

てん菜：7月以降の多雨や高温多湿による病害の多発により根部肥大が抑制され、10a 当たり収量は6,400kg。平年収量対比95%となった。

■ 10a 当たり収量の推移（北海道）

(単位：kg/10a、%)

区 分	H22	27	30	R 1	2	3	4	目標(R12)
小 麦	300 (64)	596 (133)	388 (84)	558 (121)	515 (109)	578 (118)	470 (91)	[522]
二条大麦	264 (75)	397 (125)	334 (98)	448 (128)	434 (120)	446 (117)	379 (94)	[400]
大 豆	237 (103)	253 (107)	205 (85)	226 (95)	239 (103)	251 (107)	252 (108)	[250]
小 豆	210 (88)	272 (113)	205 (80)	265 (106)	220 (87)	206 (83)	206 (88)	[260]
いんげん	192 (88)	260 (139)	136 (72)	200 (102)	68 (34)	103 (58)	140 (93)	[235]
そ ば	72 (96)	77 (117)	47 (68)	78 (115)	75 (110)	71 (103)	76 (107)	[85]
馬鈴しょ	3,240 (84)	3,740 (104)	3,430 (95)	3,810 (106)	3,600 (99)	3,580 (99)	3,750 (104)	[3,940]
てん菜	4,940 (80)	6,680 (112)	6,300 (102)	7,030 (112)	6,890 (108)	7,040 (107)	6,400 (95)	[6,410]

■ 主要畑作物の平年収量の推移（北海道）

(単位：kg/10a)

区 分	H22	27	R 2	3	4	全国 R 4
小 麦	470	423	474	489	516	441
二条大麦	353	318	361	380	402	337
大 豆	230	236	233	235	234	160
小 豆	239	240	252	247	234	204
いんげん	219	187	198	177	151	146
そ ば	75	66	68	69	71	58
馬鈴しょ	3,870	3,580	3,630	3,630	3,600	3,120
てん菜	6,210	5,990	6,360	6,560	6,720	6,720

資料：農林水産省「作物統計」、「野菜生産出荷統計」
 注1：平年収量は、直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年の平均値
 2：令和3年（2021年）の馬鈴しょ、小豆、いんげんの生産量は概数

資料：農林水産省「作物統計」、「野菜生産出荷統計」
 注1：令和4年（2022年）の馬鈴しょ、小豆、いんげんの生産量は概数
 2：下段（ ）は、平年収量対比（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年の平均値に対する当年産の比率）
 3：目標（R12）は、第6期北海道農業・農村振興推進計画の生産努力目標の目標値

3 主要な畑作物の生産状況（3）

- 令和4年（2022年）収穫量は、作物全般でおおむね良好であったものの、小麦やてん菜などでは作付面積や10a当たり収量が減少したことにより前年産を大きく下回った。
- 令和3年（2021年）の農業産出額は、産出額全体、耕種合計ともに前年を上回り、豆類や工芸作物（てん菜）及び畑作物合計は、前年を下回っている。

■ 収穫量の推移（北海道）

（単位：千t）

区 分	H22	27	30	R 1	2	3	4
小 麦	349	731	471	678	630	728	614
二条大麦	6	7	6	8	8	8	6
大 豆	58	86	82	88	93	105	109
小 豆	49	60	39	55	49	39	39
いんげん	21	25	9	13	5	7	8
そ ば	11	16	11	20	19	17	18
馬鈴しょ	1,753	1,907	1,742	1,890	1,732	1,686	1,819
てん 菜	3,090	3,925	3,611	3,986	3,912	4,061	3,545

資料：農林水産省「作物統計」、「野菜生産出荷統計」

■ 農業産出額の推移（北海道）

（単位：億円）

区 分	H22	27	30	R 1	2	3
農業産出額	9,946	11,852	12,762	12,558	12,667	13,108
耕種計	4,806	5,340	5,246	5,207	5,329	5,456
畑作物合計	1,507	1,737	1,627	1,764	1,746	2,067
麦 類	249	259	232	327	328	512
雑穀・豆類	302	336	333	462	355	368
い も 類	621	684	648	542	649	722
工芸農作物	335	458	414	433	414	465

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

4 畑作経営の動向

- 令和3年（2021年）の1経営体当たりの農業粗収益は5,087万円、農業所得は1,230万円となった。
- 令和3年（2021年）の10a当たり生産費は、大豆が前年より減少したが、小麦、原料用馬鈴しょ、てん菜は物財費が増加したことなどから、前年より増加した。
- 機械化が進んでいる小麦は労働費の割合が非常に低いが、育苗作業があるてん菜の労働費の割合が高くなっている。

■ 畑作経営の農業経営収支の推移（1経営体当たり・北海道）

（単位：ha、時間、万円、%）

区分	H22	27	30	R1	2	3
経営耕地面積	29.0	31.2	34.4	36.8	36.8	37.5
自営農業労働時間	3,765	3,720	3,409	3,907	3,958	3,949
農業粗収益	2,761	3,511	3,664	4,596	4,592	5,087
うち麦類	190	230	255	413	413	521
豆类	222	318	347	541	453	422
ばれいしょ	529	662	659	909	992	1,121
工芸農作物	360	500	529	594	618	650
うち共済・補助金等受取額	927	1,245	1,267	1,487	1,435	1,672
農業経営費	1,966	2,364	2,456	3,361	3,716	3,856
農業所得	795	1,147	1,208	1,235	876	1,230
農業所得率	28.8	32.7	33.0	26.9	19.1	24.2
農業粗収益に占める共済・補助金等受取金の割合	33.6	35.5	34.6	32.4	31.3	32.9

資料：農林水産省「農業経営統計調査」
注：平成30年(2018年)までは販売農家1戸あたりの数値

■ 農業用機械の1経営体当たり台数の推移（北海道）

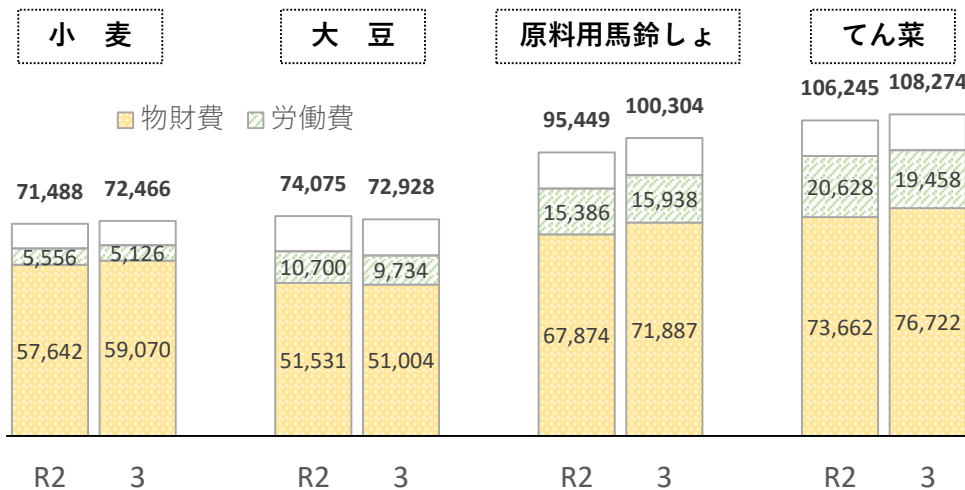
（単位：台）

区分	H2	7	12	17	22	27
トラクター	1.40	1.77	2.04	2.76	2.86	3.08
普通型コンバイン	0.07	0.28	0.33	0.37	0.42	0.42

資料：農林水産省「農林業センサス」を基に道農政部で作成
注：農業用機械台数を農業経営体数（平成12年（2010年）以前は総農家戸数）で除した数値

■ 10a当たり生産費（全算入生産費・北海道）

（単位：円）



資料：農林水産省「農産物生産費統計」

■ 10a当たり投下労働時間（北海道）

（単位：時間、%）

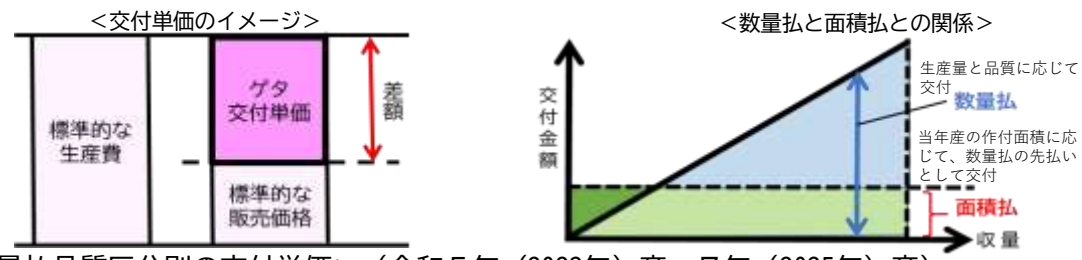
区分	H22	27	30	R1	2	3	R3/H22
小麦	3.21	3.14	2.83	3.05	2.92	2.82	87.9
大豆	9.13	7.76	6.17	6.61	5.83	5.44	59.6
馬鈴しょ	8.33	8.45	8.47	8.07	8.34	8.65	103.8
てん菜	14.91	14.13	12.57	11.67	11.44	10.93	73.3

資料：農林水産省「農産物生産費統計」

5 経営所得安定対策等

- 経営所得安定対策では、担い手農家の経営の安定に資するよう、諸外国との生産条件の格差から生ずる不利を補正する交付金（ゲタ対策）と、農業者の拠出を前提とした農業経営のセーフティネット対策（ナラシ対策）を実施している。
- 畑作物のうち、農業共済に加入している割合は、面積ベースで見ると、そばが約3割、大豆が約7割、その他の作物では8割から9割となっている。

■ 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）の仕組み

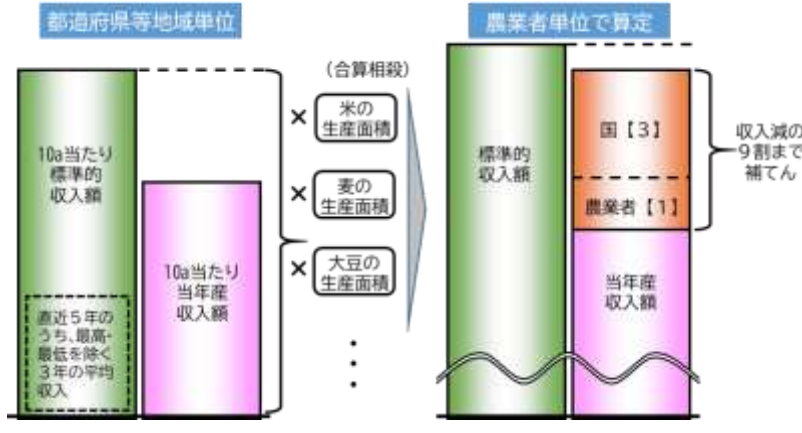


<数量払品質区分別の交付単価>（令和5年（2023年）産～7年（2025年）産）

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等				
	A	B	C	D	A	B	C	D	
小麦 60kg (パン・中華用品種)	課税事業者向け単価	7,860円	7,360円	7,210円	7,150円	6,700円	6,200円	6,050円	5,990円
	免税事業者向け単価	8,270円	7,770円	7,620円	7,560円	7,110円	6,610円	6,460円	6,400円
小麦 60kg (上記以外)	課税事業者向け単価	5,560円	5,060円	4,910円	4,850円	4,400円	3,900円	3,750円	3,690円
	免税事業者向け単価	5,970円	5,470円	5,320円	5,260円	4,810円	4,310円	4,160円	4,100円
二条大麦 50kg	課税事業者向け単価	5,870円	5,450円	5,330円	5,280円	5,010円	4,590円	4,460円	4,410円
	免税事業者向け単価	6,220円	5,800円	5,680円	5,630円	5,360円	4,940円	4,810円	4,760円
六条大麦 50kg	課税事業者向け単価	5,210円	4,790円	4,660円	4,610円	4,180円	3,760円	3,640円	3,590円
	免税事業者向け単価	5,510円	5,090円	4,960円	4,910円	4,480円	4,060円	3,940円	3,890円
はだか麦 60kg	課税事業者向け単価	9,220円	8,720円	8,570円	8,480円	7,650円	7,150円	7,000円	6,920円
	免税事業者向け単価	9,750円	9,250円	9,100円	9,010円	8,180円	7,680円	7,530円	7,450円

品質区分 (糖度)	←(+0.1度ごと)	16.6度	→(+0.1度ごと)	品質区分 (品種)	キザキノナネ きらきら銀河 キラリボシ ナナシキブ ペノカのしずく	その他の品種	
てん菜 t	課税事業者向け単価	+62円	5,070円				▲62円
	免税事業者向け単価	+62円	5,290円	▲62円			
品質区分 (でん粉含有率)	←(+0.1%ごと)	19.6%	→(+0.1%ごと)	なたね 60kg	課税事業者向け単価	7,720円	6,980円
					免税事業者向け単価	8,140円	7,400円
品質区分(等級)		1等	2等	普通大豆 60kg	課税事業者向け単価	10,360円	9,670円
					免税事業者向け単価	10,770円	10,080円
そば 45kg	課税事業者向け単価	17,180円	15,070円	特定加工用大豆	課税事業者向け単価	8,310円	
	免税事業者向け単価	18,010円	15,900円		免税事業者向け単価	8,720円	

■ 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）の仕組み



■ 農業共済事業の概要（令和4年度（2022年度））

(単位：ha、%、戸、百万円)

区分	作付面積	引受面積	面積加入率	被害戸数	被害面積	支払共済金
麦	132,400	111,175	84.0	4,174	38,250	3,925
馬鈴しょ	48,500	39,336	81.1	-	-	-
大豆	43,200	29,649	68.6	51	133	13
小豆	19,100	15,185	79.5	16	71	10
いんげん	5,780	5,118	88.5	11	31	3
てん菜	55,400	48,513	87.6	2,650	24,344	2,979
そば	24,000	7,916	33.0	252	1,515	76
計	328,380	256,892	78.2	延べ7,154	64,344	7,006

資料：作付面積は農林水産省「作物統計」、その他は北海道農業共済組合連合会調べ
注：麦の作付面積は、小麦と二条大麦の計

Ⅱ 麦類をめぐる情勢

1 小麦の需給動向

- 国産小麦の生産量は、近年、70～110万トンで推移しており、令和3年（2021年）は110万トンとなっている。
- 小麦の国内消費仕向量は、近年およそ650万トンで推移しており、このうち550万～600万トン程度が米国、カナダ、豪州などの海外から輸入され、令和3年（2021年）の小麦自給率は17%となっている。

■ 小麦の需要動向

（単位：千トン、%）

区分	H12	17	22	27	29	30	R1	2	3
国内生産量 ①	688	875	571	1,004	907	765	1,037	949	1,097
輸入量 ②	5,688	5,292	5,473	5,660	5,939	5,638	5,462	5,521	5,375
在庫増減 ③	65	▲46	▲340	83	269	▲107	26	58	51
国内消費仕向量④（①+②+③）	6,311	6,213	6,384	6,581	6,577	6,510	6,473	6,412	6,421
粗食料	5,299	5,198	5,366	5,384	5,376	5,227	5,225	5,136	5,085
加工用	383	357	324	306	280	269	269	262	275
その他	629	658	694	891	921	1,014	979	1,014	1,061
国民1人・1年あたり供給純食料	32.6	31.7	32.7	33.0	33.1	32.2	32.3	31.8	31.6
国民1人・1年あたり供給粗食料	41.7	40.7	41.9	44.0	42.4	41.3	41.4	40.7	40.5
自給率（①/④）	11	14	9	15	14	12	16	15	17

資料：農林水産省「食料需給表」

注1：粗食料は、国内消費仕向量から加工用、その他を除いたもの

2：加工用は醤油、でん粉用等、その他は種子用、飼料用及び減耗量

3：令和3年度（2021年度）は概算値

2 北海道の麦作の位置づけ

- 北海道は、4麦合計で作付面積・生産量ともに全国の約5割を占め、そのうち、小麦は作付面積及び収穫量で約6割を占めており、国内の主要生産地となっている。
- 麦類は輪作体系を基本とした畑作農業の基幹作物であるとともに、水田農業においても重要な戦略作物となっている。
- 畑作物の作付面積に占める麦類の作付面積の割合は、労働力不足を背景として省力的な麦類に偏る傾向が見られ、畑作物の作付け全体の約4割となっており、バランスの良い適正な輪作の確立が課題となっている。

■ 北海道麦作の地位 (令和4年(2022年)産)

(単位: ha、t、%)

区 分		北海道 (A)	全国 (B)	A/B (%)
4麦合計	作付面積	132,400	290,600	45.6
	収 穫 量	620,900	1,227,000	50.6
うち小麦	作付面積	130,600	227,300	57.5
	収 穫 量	614,200	993,500	61.8

資料: 農林水産省「作物統計」

注: 4麦は、小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦

■ 畑作4品に占める麦作付面積の割合 (令和3年(2021年)産)

(単位: ha、%)

区 分		北海道	十勝	オホーツク	上川	空知
畑作物作付面積		325,712	120,827	74,490	42,273	39,935
麦類	作付面積	127,840	43,500	30,103	15,888	20,400
	割 合	39.2	36.0	40.4	37.6	51.1

資料: 農林水産省「作物統計」、農産振興課調べ

注1: 畑作物作付面積は、麦類(小麦、大麦)、豆類(大豆、小豆、えんどう、いんげん)、てん菜、馬鈴しょ、そば、なたねの合計

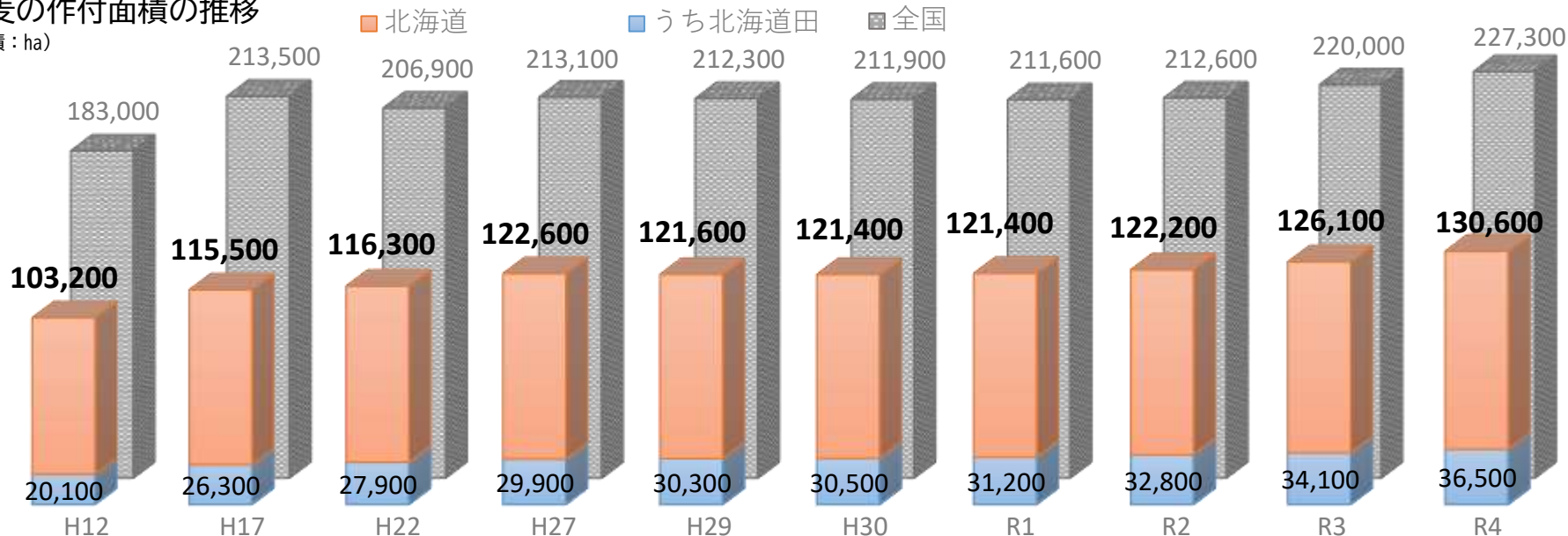
注2: 小豆、えんどう、いんげんは道推計値

3 北海道内の生産状況（1）

○ 本道の小麦の作付面積は、米の生産調整の強化などから増加傾向にあったが、近年は適正輪作の維持の観点から12万ha程度で推移しており、令和4年（2022年）産は13万0,600haとなった。

■ 小麦の作付面積の推移

（面積：ha）



資料：農林水産省「作物統計」

■ 小麦の収穫量の推移

（単位：t、%、kg/10a）

区分	H12	17	22	27	29	30	R1	2	3	4
全国	688,200	877,400	571,300	1,004,000	906,700	764,900	1,037,000	949,300	1,097,000	993,500
全道	378,100	540,100	349,400	731,000	607,600	471,100	677,700	629,900	728,400	614,200
秋まき	372,500	518,600	334,800	680,000	553,300	435,700	616,400	569,200	664,000	560,000
春まき	5,500	21,400	14,600	51,000	54,300	35,400	61,300	60,700	64,400	54,200
全国対比	54.9	61.6	61.2	72.8	67.0	61.6	65.4	66.4	66.3	61.8
10a当たり収量	366	468	300	596	500	388	558	515	578	470
平均収量対比	90	111	64	141	113	84	121	109	118	99

資料：農林水産省「作物統計」

3 北海道内の生産状況（2）

- 令和4年（2022年）産小麦の作付面積の内訳は、秋まき小麦が11万2,000ha、春まき小麦が1万8,600haとなっている。
- 振興局別の作付面積は、畑作地域の十勝、オホーツク管内で56.3%を占めているほか、空知及び上川管内で29.3%となっており、水田転作地域における作付面積の割合が増えている。

令和4年（2022年）産小麦の振興局別収穫量（北海道）

（単位：ha、kg/10a、t）

区分	小麦計			春まき小麦			秋まき小麦		
	作付面積	10a当たり収量	収穫量	作付面積	10a当たり収量	収穫量	作付面積	10a当たり収量	収穫量
北海道	130,600	470	614,200	18,600	291	54,200	112,000	500	560,000
空知	22,100	433	95,700	3,880	252	9,810	18,200	471	85,900
石狩	10,000	429	42,900	2,820	302	8,510	7,180	479	34,400
後志	2,090	386	8,080	410	233	955	1,680	423	7,120
胆振	2,620	368	9,620	875	263	2,300	1,740	420	7,320
日高	89	240	214	7	14	1	82	260	213
渡島	409	261	1,070	171	120	205	238	363	863
檜山	1,330	247	3,290	516	76	393	814	355	2,890
上川	16,200	413	66,800	3,380	251	8,490	12,800	456	58,300
留萌	1,970	331	6,250	737	247	1,820	1,230	382	4,710
オホーツク	29,600	551	162,800	4,690	397	18,600	24,900	580	144,200
十勝	43,900	490	215,400	1,110	277	3,080	42,800	496	212,400
釧路	268	466	1,250	×	×	×	×	486	×
根室	112	434	486	×	×	×	×	442	×

資料：農林水産省北海道農政事務所調べ

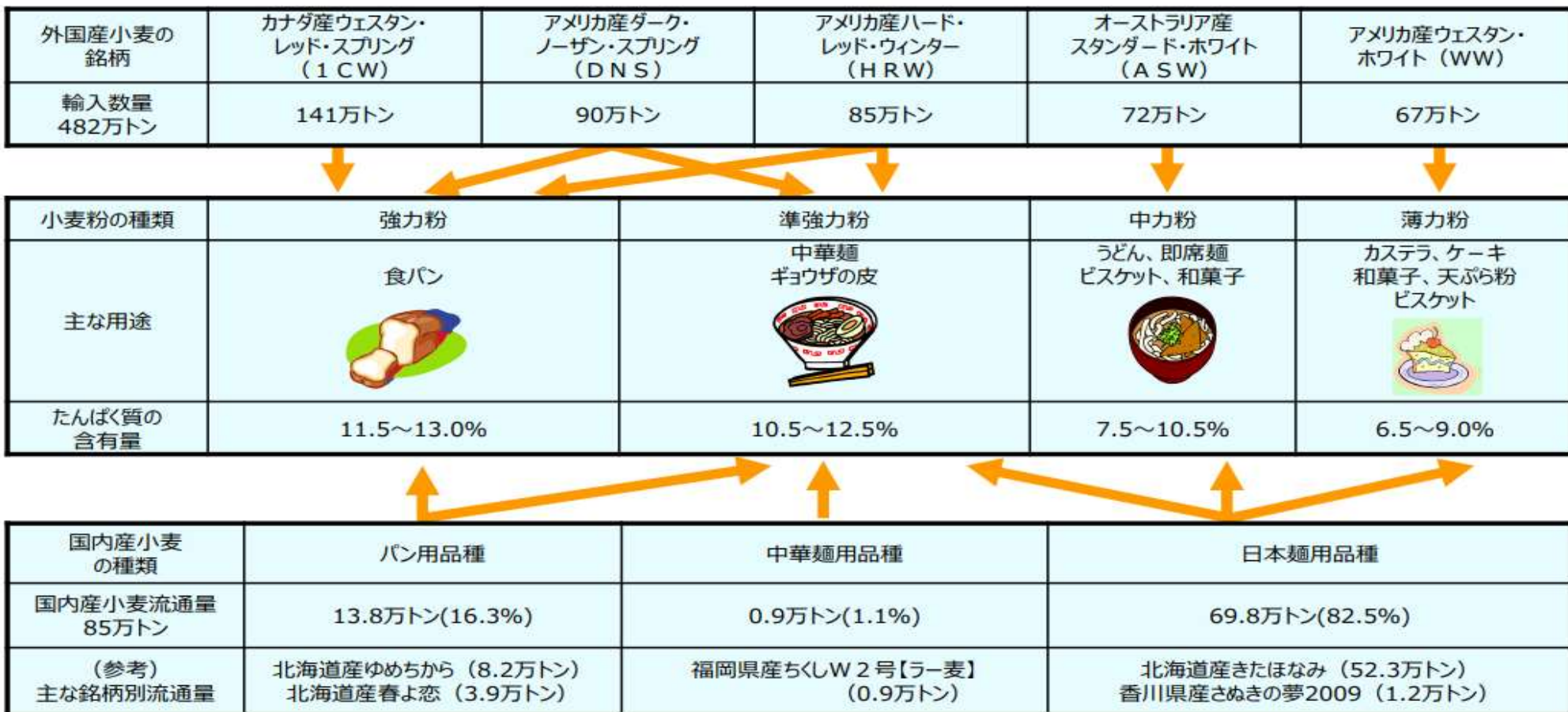
注1：宗谷総合振興局管内には小麦の作付はない

注2：「×」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

4 小麦の主な用途

- 小麦はパンや麺、菓子など幅広い用途で消費され、国産小麦は日本麺用を中心に供給されており、道産小麦では「きたほなみ」の流通量が多い。
- 近年では、国産小麦を使用したこだわりのパン商品が販売され、「ゆめちから」や「春よ恋」、「キタノカオリ」などの道産小麦が使用されている。

■ 小麦の主な用途と国内産の使用状況



資料：農林水産省「麦をめぐる最近の動向について」

注1：輸入数量及び国内小麦流通量は、過去5年（H29～R3年度）の平均数量である。

注2：輸入数量は、5銘柄以外の銘柄（デュラム小麦等）28万トンを含む。

注3：国内産小麦流通量は、集荷団体からの聞き取り数量である。

5 道産小麦の品種の動向（1）

- 主要な品種は、秋まき小麦では「ホクシン」から「きたほなみ」や「ゆめちから」へ、春まき小麦では「ハルユタカ」から「春よ恋」や「はるきらり」へと転換が進んでいる。
- 近年のパン・中華麺用品種へのニーズの高まりから、超強力小麦品種「ゆめちから」やパン適性に優れる春まき小麦「春よ恋」の作付が増加傾向にある。ほか、菓子用途品種の今後の作付増加が期待される。

■ 小麦の品種別作付面積の推移（北海道）

（単位：ha）

区 分		H12	17	22	27	29	30	R1	2	3
秋まき小麦	タクネコムギ	661	1,200	725						
	チホクコムギ	4,101								
	タイセツコムギ	1,416	497							
	ホクシン	88,465	103,400	71,712	139	84		50		30
	きたほなみ			31,456	91,952	87,837	88,676	89,387	89,270	87,712
	きたもえ		1,020	748	10					
	きたさちほ				296		16			
	キタノカオリ		1,160	1,400	2,223	2,076	1,517	1,330	870	656
	ゆめちから			32	11,953	13,444	12,884	13,786	15,080	19,898
	つるきち				57	358	263	234	141	148
	北見95号							1	4	8
	その他	34	2	11	144	390	182	10	34	46
春まき小麦	ハルユタカ	6,003	771	953	740	928	911	717	945	824
	春のあけぼの		30							
	春よ恋		6,430	8,032	12,888	14,294	14,627	13,649	13,223	13,994
	はるきらり			516	1,672	2,147	2,339	2,248	2,633	2,780
	その他	17					13			4
合計	103,200	115,500	116,300	122,600	121,600	121,400	121,400	122,200	126,100	

資料：農産振興課調べ

注：合計はラウンドの関係で必ずしも一致しない

5 道産小麦の品種の動向（2）

○ 令和2年（2020年）には、「きたほなみ」とほぼ同等の農業特性を有し、薄力でスポンジケーキやクッキーなどの菓子用途に適する北海道初の「北見95号」が優良品種に認定され、新たな需要の開拓や今後の作付の増加が期待されている。

■ 北海道で作付けされてる小麦の主な優良品種

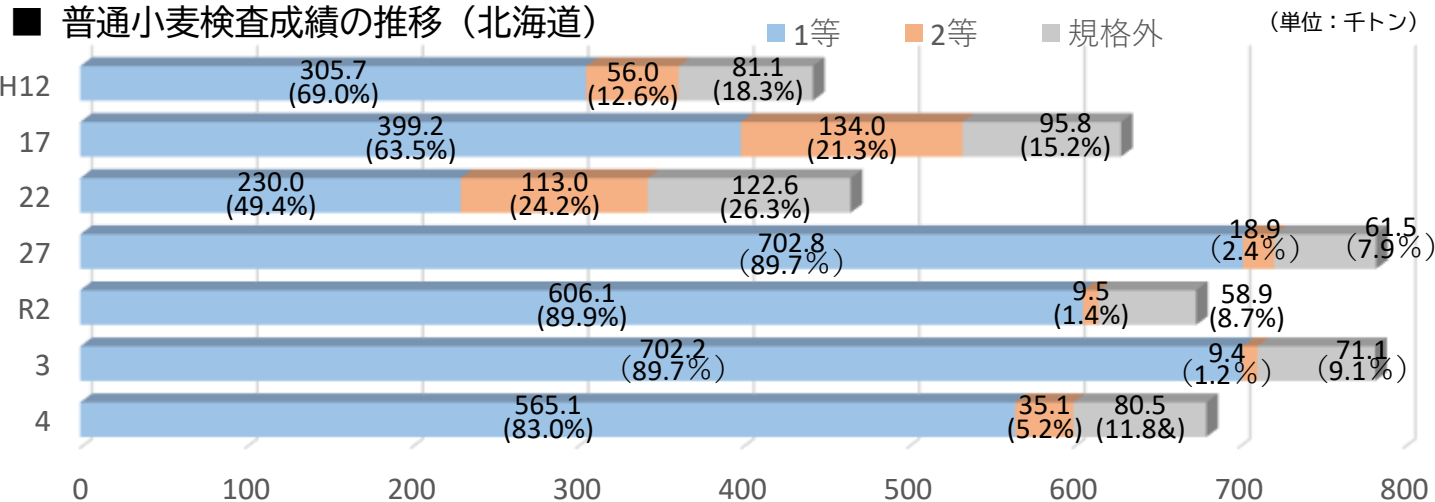
区分	品種名	認定年	品種育成者名	品種特性
秋まき小麦	キタノカオリ	平成15年 (2003年)	農研機構 北海道農業研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・パン適性に優れた硬質秋まき小麦として、初めての認定。 ・赤さび病やうどんこ病などの抵抗性及び耐倒伏性に優れ、製パン適性も優れる。
	きたほなみ	平成18年 (2006年)	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	<ul style="list-style-type: none"> ・日本めん用秋まき小麦。 ・穂発芽耐性に優れ、多収で、製粉製及び製めん適性も優れる。
	ゆめちから	平成21年 (2009年)	農研機構 北海道農業研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・パン生地などへのブレンド適性に優れた硬質秋まき小麦。 ・コムギ縮病に対して極めて強い抵抗性。 ・「きたほなみ」等の中力粉とのブレンドによりパン・中華めんに適する超強力粉系小麦。
	北見95号	令和2年 (2020年)	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	<ul style="list-style-type: none"> ・「きたほなみ」に比べ、生地物性が弱く（薄力）、スポンジケーキ適性及びクッキー適性が優れる北海道初の菓子用品種。 ・収量性や耐病性、穂発芽耐性が「きたほなみ」とほぼ同等。
春まき小麦	春よ恋	平成12年 (2000年)	ホクレン農業協同組合連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・外観品質・パン適性に優れる。 ・赤さび病、穂発芽耐性はやや優れ、うどんこ病に強い。
	はるきらり	平成18年 (2006年)	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	<ul style="list-style-type: none"> ・大粒、多収の春まき小麦で障害耐性（穂発芽、赤かび病）が改善、初冬まきにも適し、製パン適性も優れる。

6 小麦の品質

○ 令和4年（2022年）産の小麦検査数量は680,858トンとなり、生育期間中の天候が順調に推移したことなどにより、1等の割合は83.0%となった。

○ 近年、品種改良が進み、生産者の栽培技術も向上していることから、道産小麦と輸入小麦の品質にほとんど差がない状況。

■ 普通小麦検査成績の推移（北海道）



資料：北海道農政事務所

■ 国内外の主要品種の品質比較

	原料試験					製めん試験					
	容積重 (g/l)	千粒重 (g)	水分 (%)	灰分 (%)	タンパク (%)	色	かたさ	粘弾性	なめらかさ	食味	合計
オーストラリア産ASW	823	38.1	9.9	1.26	9.9	14.6	7.7	19.3	11.4	10.5	74.3
北海道産きたほなみ	845	37.2	12.9	1.33	10.9	14.4	7.4	20.0	11.1	10.5	74.1
	原料試験					製パン試験					
	容積重 (g/l)	千粒重 (g)	水分 (%)	灰分 (%)	タンパク (%)	吸水性	作業性	焼色	体積	食感	総合評価
カナダ産1CW	803	37.3	13.8	1.50	13.6	16.0	16.0	8.0	8.0	20.0	80.0
北海道産春よ恋	847	42.5	12.6	1.57	13.2	16.0	15.0	8.0	9.0	19.4	79.5

品質にほとんど差がない

資料：農林水産省「需要に応じた麦生産」

7 国内産小麦の流通について

- 国産の麦（食糧用）は、需要に応じた生産を計画的に進めるため、毎年播種前に生産者と実需者（製粉企業等）の間で取引数量・価格について契約する取引（播種前契約）が実施されている。
- 販売予定数量の3割程度が入札取引され、残りは入札で形成された価格を基本とする相対取引が行われている。

■ 国内産麦の基本的な取引の流れ（北海道の場合）

〔は種年6月～〕

生産者団体と実需者の間で情報交換
(販売予定数量と購入希望数量の相互提示)



〔8・9月～〕

入札取引の実施
(販売予定数量の3割)

相対取引の実施
(販売予定数量の7割)

価格決定



【生産者団体と実需者の播種前契約の締結】

〔9月〕

は種(秋まき)



〔翌年9月〕

収穫・実需者への引渡し

約1年の
タイムラグ

流通開始

■ 民間流通麦の入札結果（ばら、1等、産地倉庫在姿、消費税等抜き）

(単位：円/t、t)

年産	産地	銘柄	基準価格 ①	指標価格 (加重平均) ②	(参考) 対比②/①	上場数量 ③	申込数量 ④	倍率 ④/③
R1	北海道	きたほなみ	55,748	59,956	107.5%	130,440	155,400	1.2
		キタノカオリ	53,107	58,417	110.0%	1,320	5,370	4.1
		ゆめちから	52,843	58,127	110.0%	15,110	56,410	3.7
		春よ恋	57,906	63,696	110.0%	12,350	36,080	2.9
		はるきりり	50,675	55,742	110.0%	1,530	3,580	2.3
	全国計		53,528	57,143	106.8%	214,200	310,240	1.4
R2	北海道	きたほなみ	61,155	64,313	105.2%	125,250	164,590	1.3
		キタノカオリ	-	-	-	-	-	-
		ゆめちから	59,290	65,219	110.0%	17,040	32,270	1.9
		春よ恋	64,970	71,467	110.0%	10,520	41,820	4.0
		はるきりり	56,857	62,542	110.0%	1,400	3,240	2.3
	全国計		57,835	60,253	104.2%	207,010	306,860	1.5
R3	北海道	きたほなみ	60,519	54,698	90.4%	131,410	85,750	0.7
		キタノカオリ	-	-	-	-	-	-
		ゆめちから	61,371	55,995	91.2%	22,910	15,920	0.7
		春よ恋	67,250	73,963	110.0%	10,350	43,120	4.2
		はるきりり	58,852	64,737	110.0%	1,510	5,240	3.5
	全国計		55,203	52,516	95.1%	221,790	269,560	1.2
R4	北海道	きたほなみ	55,245	49,742	90.0%	128,190	91,820	0.7
		ゆめちから	56,555	50,966	90.1%	26,180	8,900	0.3
		春よ恋	74,703	68,431	91.6%	11,920	13,130	1.1
		はるきりり	65,384	58,846	90.0%	1,990	1,390	0.7
		全国計		52,972	49,810	94.0%	227,160	244,540

資料：(一社)全国小麦改良協会

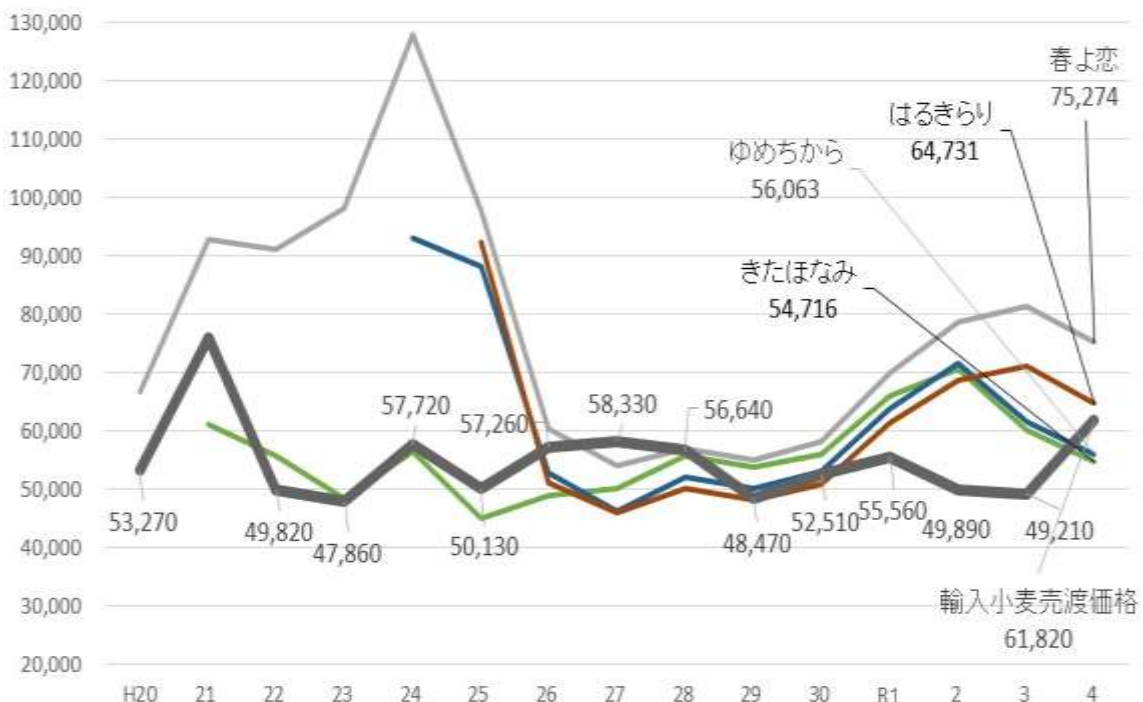
資料(一社)全国小麦改良協会

8 国内での小麦の流通価格

- 道産小麦は近年、購入希望数量が販売予定数量を上回る状況が続いていたが、令和3年（2021年）産の入札では新型コロナウイルス等の影響により「きたほなみ」と「ゆめちから」で申込倍率が0.7倍となるなど、需要と供給のミスマッチが生じた。
- パン用品種の「春よ恋」と「はるきらり」は引き続き高い申込倍率となるなど、様々な需要に対応した道産小麦の安定供給が求められている。

■ 道産小麦の取引価格及び輸入小麦政府売渡価格の推移

(単位：円/トン)



資料：農林水産省、(一社)全国米麦改良協会

注1：横軸の「年産」は国産小麦に係る。

注2：道産小麦の取引価格は、播種前（年産の前年）の9月に行われた入札の落札価格。落札価格は税込価格に換算。

注3：輸入小麦売渡価格は、横軸の各年産の前年10月期の5銘柄加重平均売渡価格（税込み）。

■ 外国産食糧用小麦の政府買入価格と政府売渡価格の価格関係の推移

(単位：円/トン)

区分	政府買入価格①	政府売渡価格②	マークアップ③	③/②
H20年度	62,598	72,893	10,295	14.1%
21年度	31,170	56,386	25,216	44.7%
22年度	32,382	47,339	14,957	31.6%
23年度	39,716	56,795	17,079	30.1%
24年度	34,412	49,635	15,223	30.7%
25年度	40,104	56,085	15,981	28.5%
26年度	42,362	59,013	16,651	28.2%
27年度	39,955	58,933	18,978	32.2%
28年度	32,100	50,733	18,633	36.7%
29年度	36,027	51,831	15,804	30.5%
30年度	38,178	54,843	16,665	30.4%
R1年度	35,275	52,160	16,885	32.4%
2年度	36,187	50,308	14,121	28.1%
3年度	49,327	56,560	7,233	12.8%

資料：農林水産省

Ⅲ 大豆をめぐる情勢

1 北海道大豆の位置づけ

- 北海道は、作付面積で国内シェアの約3割、生産量では約4割を占める国内における大豆の主産地となっている。
- 大豆は、輪作体系を基本とした畑作農業の基幹作物であるとともに、水田農業においても重要な戦略作物となっている。

■ 全国大豆生産状況と北海道の地位（令和4年（2022年）産）

（単位：ha、t、kg/10a、%）

区分	作付面積	順位	生産量	順位	単収	順位	作付面積シェア	生産量シェア
全国	151,600	—	242,800	—	160	—	—	—
北海道	43,200	1	108,900	1	252	1	28.5	44.9
宮城県	11,900	2	15,800	2	133	13	7.8	6.5
秋田県	9,420	3	11,500	3	122	19	6.2	4.7
福岡県	8,160	4	9,790	5	120	21	5.4	4.0
佐賀県	7,630	5	8,930	6	117	23	5.0	3.7
滋賀県	6,900	6	10,600	4	153	7	4.6	4.4

資料：農林水産省「大豆をめぐる事情」

■ 畑作4品に占める大豆作付面積の割合（令和3年（2021年）産）

（単位：ha、%）

区分	北海道	十勝	オホーツク	上川	空知	
畑作物作付面積	325,712	120,827	74,490	42,273	39,935	
豆類	作付面積	67,865	29,356	5,540	9,302	10,590
	割合	20.8	24.3	7.4	22.0	26.5
大豆	作付面積	42,000	11,000	3,080	8,030	10,300
	割合	12.9	9.1	4.1	19.0	25.8

資料：農林水産省「作物統計」、農産振興課調べ

注：畑作物作付面積は、麦類（小麦、大麦）、豆類（大豆、小豆、えんどう、いんげん）、てん菜、馬鈴しょ、そば、なたねの合計

2 大豆の需要動向

○ 大豆の国内消費仕向量は、平成27年（2015年）から増加傾向で推移し、令和3年（2021年）産の国産消費仕向量は356万トンとなり、その内訳は、製油用が約7割を占めている。

○ 大豆は、国内消費の大部分を輸入でまかなっており、国内生産量は24万トン程度、自給率は7%となっている。

■ 大豆の需要動向

（単位：千t、%）

区分	H12	17	22	27	29	30	R1	2	3
国内生産量	235	225	223	243	253	211	218	219	247
輸入量	4,829	4,181	3,456	3,243	3,218	3,236	3,359	3,139	3,224
国内消費仕向量	4,962	4,340	3,642	3,380	3,573	3,567	3,670	3,498	3,564
粗食料	814	871	810	794	821	844	858	888	841
加工用	3,917	3,253	2,639	2,413	2,599	2,558	2,663	2,455	2,571
うち製油用	3,721	3,080	2,473	2,248	2,432	2,393	2,486	2,290	2,414
うち味噌醤油用	196	173	166	165	167	165	177	165	157
自給率	5	5	6	7	7	6	6	6	7

資料：農林水産省「大豆をめぐる事情」

注1：令和3年度の数値は概算値

注2：加工用の「うち製油用」は農林水産省油糧生産実績調査、味噌醤油用は加工用と製油用の差

3 大豆の生産状況

- 北海道の大豆の作付面積は、近年、取引価格が高値で推移したことや、他作物からの転換などが進んだことにより、増加傾向にあり、令和4年（2022年）産は4万3,200haと前年より増加した。
- 振興局別では水田地域の空知・上川、畑作地域の十勝で道内作付面積の約7割を占めている。
- 近年では、寒さに強い品種の普及や省力栽培技術の導入などにより、オホーツク管内の畑作地帯で作付が増加している。

大豆の作付面積の推移

(単位：ha)

区分	H17	22	27	29	30	R1	2	3	4
全国	134,000	137,700	142,000	150,200	146,600	143,500	141,700	146,200	151,600
うち田	110,500	119,000	117,700	120,800	118,400	116,000	114,200	115,600	120,700
北海道	21,100	24,400	33,900	41,000	40,100	39,100	38,900	42,000	43,200
うち田	11,000	14,400	11,700	18,900	18,900	18,400	18,300	18,500	19,400
空知	4,530	7,490	9,470	10,500	10,800	10,300	10,000	10,300	10,500
上川	4,950	4,860	6,800	8,190	7,800	7,540	7,560	8,030	8,200
十勝	4,710	4,010	7,530	10,700	9,870	9,410	9,280	11,000	11,300
オホーツク	619	1,020	1,600	2,300	2,370	2,630	2,800	3,080	3,440

資料：農林水産省「作物統計」他

大豆の生産量の推移

(単位：t、kg/10a、%)

区分	H17	22	27	29	30	R1	2	3	4	
全国	生産量	226,400	222,500	243,100	253,000	211,300	217,800	218,900	246,500	242,800
	10a収量	169	162	171	168	144	152	154	169	160
	平均収量対比	101	100	99	101	86	89	96	105	100
北海道	生産量	52,400	57,800	85,900	100,500	82,300	88,400	93,000	105,400	108,900
	10a収量	248	237	253	245	205	226	239	251	252
	平均収量対比	110	103	107	103	85	95	103	107	108

資料：農林水産省「作物統計」

4 大豆の流通・販売

- 令和4年（2022年）産普通大豆の検査成績は1等22.3%、2等38.5%となった。
- 国産大豆は、市場規模が小さく輸入品との短期的な代替性が低いため、作柄等に応じて価格が大きく変動する。
- 日本に輸入されている大豆は、アメリカ産が約7割を占め、ブラジル、カナダ、中国が続く。

■ 普通大豆検査成績の推移（北海道）

（単位：％）

区分	H25	26	27	28	29	30	R1	2	3	4
1等	22.5	26.2	24.6	28.7	26.3	29.4	25.1	23.6	25.8	22.3
2等	35.8	41.1	43.5	39.6	48.3	44.7	37.5	38.7	43.8	38.5
3等	41.7	32.7	31.9	31.7	25.3	25.9	37.4	37.7	30.4	39.2
規格外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

資料：農林水産省北海道農政事務所調べ

■ 販売価格の推移（年産別）（普通大豆及び特定加工用）

（単位：円/60kg）

区分		H24	25	26	27	28	29	30	R1	2	3
北海道	とよまさり	7,763	13,410	12,297	9,857	8,599	7,878	8,522	10,191	11,064	10,809
	スズマル	7,943	10,601	10,186	10,149	10,816	9,268	17,190	10,563	10,003	11,818
	全銘柄平均	7,753	13,041	11,813	9,760	8,699	8,185	10,053	10,070	10,908	10,023
全国	全銘柄平均	8,145	14,168	13,380	10,135	9,020	8,202	9,124	10,346	11,295	9,709

資料：（公財）日本特産農産物協会の大豆入札取引結果

■ 大豆の国別輸入状況（令和4年（2022年）産）

（単位：千t、％）

輸入先	合計	アメリカ	ブラジル	カナダ	中国	その他
輸入量	3,503(100)	2,576(73)	596(17)	309(9)	19(1)	3(0)

資料：財務省「貿易統計」

注：輸入価格は当該年1～12月輸入分の平均価格

■ 国産大豆と米国産大豆の価格（年産別）

（単位：円/60kg）

区分		H24	25	26	27	28	29	30	R1	2	3
国産		8,145	14,168	13,380	10,135	9,020	8,202	9,124	10,346	11,295	9,709
米国産	非GMO分別価格	6,125	6,340	6,335	5,883	6,015	5,814	5,653	5,595	6,870	8,460
	GMO不分別価格	3,883	3,848	3,348	3,070	3,155	3,023	2,912	2,995	4,415	5,829

資料：農林水産省「大豆をめぐる事情（令和5年5月）」

5 道産大豆の品種

- 令和3年（2021年）産の銘柄別の作付面積は、主力銘柄である「とよまさり」（煮豆・豆腐用）が約7割を占める。
- 北海道では、（地独）道総研十勝農業試験場において、耐冷性や病害虫抵抗性の他、コンバイン収穫適性や加工適性（豆腐用高タンパク・高糖分）に優れた品種の育成に取り組んでいる。

■ 主要銘柄別作付面積の推移（北海道）

（単位：ha、%）

産地品種銘柄	26	27	28	29	30	R1	2	3	R3割合
とよまさり	18,303	22,725	27,844	28,659	27,112	25,291	25,951	28,492	67.8
ユキシズカ	3,791	5,103	5,761	5,427	5,325	5,982	6,757	6,950	16.5
スズマル	1,940	1,376	1,643	1,568	1,556	1,617	1,621	2,026	4.8
音更大袖振	491	569	586	628	543	475	341	304	0.7
つるの子・ツルムスメ	500	334	275	351	352	458	458	399	1.0
（黒大豆）	2,352	2,052	2,507	2,825	3,662	3,925	3,117	3,203	7.6
その他	1,223	1,741	1,584	1,542	1,550	1,352	655	626	1.5
大豆合計	28,600	33,900	40,200	41,000	40,100	39,100	38,900	42,000	100.0%

資料：農産振興課調べ

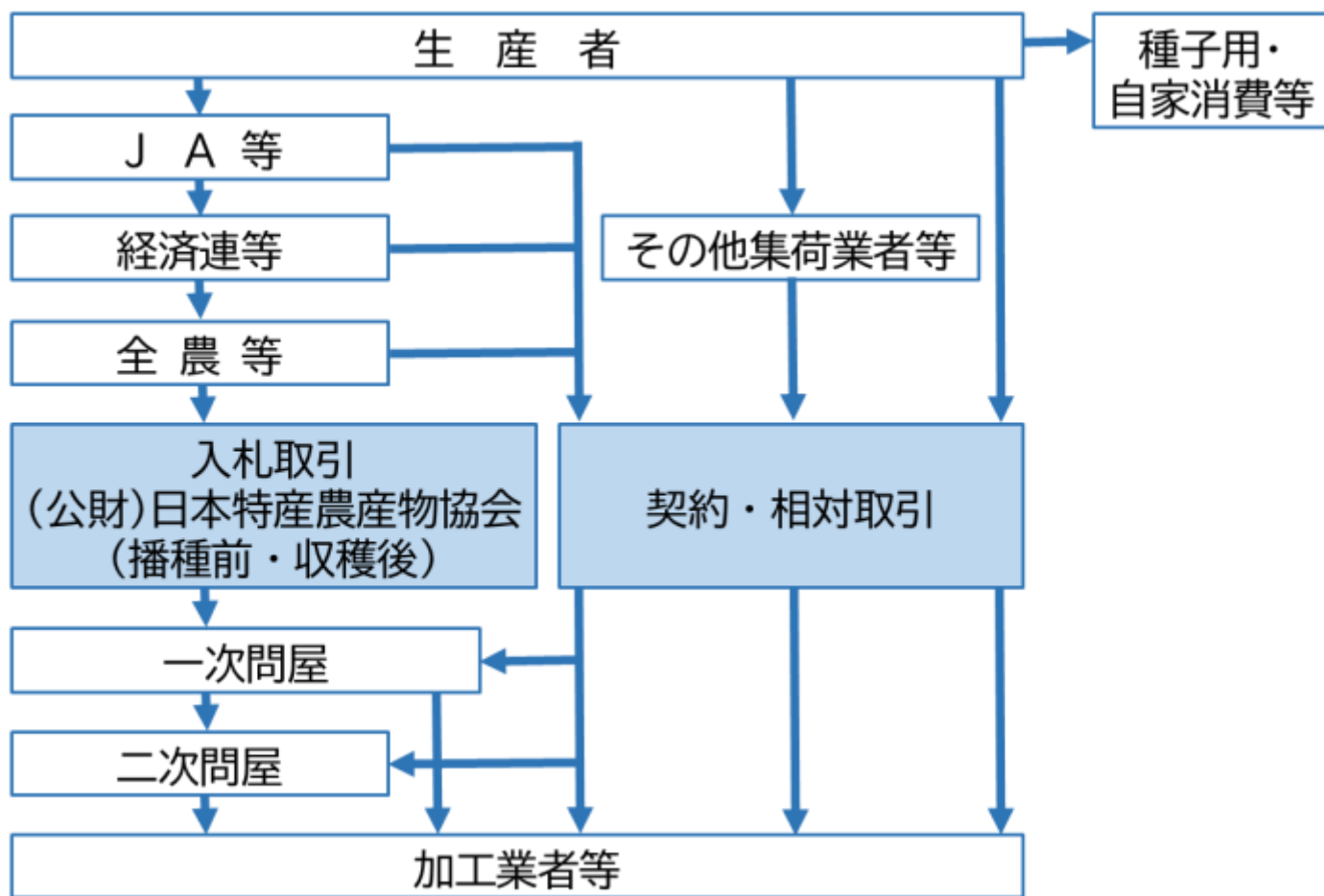
■ 北海道において栽培される主な品種

品種名	採用年次	主な特徴
いわいくろ	H10	極大粒、黒豆、わい化病やや強、シストセンチュウ弱
ユキホマレ	13	中粒、白目、やや早生、耐冷、シストセンチュウ抵抗性、難裂性
ユキシズカ	14	小粒、白目、シストセンチュウ抵抗性、臍周辺着色抵抗性
ゆきぴりか	18	中粒、白目、耐冷、シストセンチュウ抵抗性、高イソフラボン、わい化病弱
タマフクラ	19	極大粒、白目、百粒重量、加工適性（納豆・煮豆等）
ユキホマレR	22	シストセンチュウ抵抗性極強、白目、やや早生、耐冷、難裂性
ゆめのつる	23	極大粒、白目、低温抵抗性、豆腐加工適性
とよみづき	24	やや大粒、白目、低温抵抗性、豆腐加工適性
スズマルR	27	小粒、白目、耐冷、シストセンチュウ抵抗性極強
とよまどか	30	やや大粒、白目、低温抵抗性、耐倒伏性、豆腐加工適性

6 国産大豆の流通形態

- 国内大豆は民間ベースの自由な流通となっており、様々な用途・規模など多様な実需者ニーズに対応するため、流通経路が多岐に渡っている。
- 国産大豆の販売は、大きく分けて入札販売、相対販売、契約栽培の3つがある。
- 平成30年（2018年）産以降、天候等によるリスクを低減させるため、「播種前入札取引」が導入され、播種前入札取引では、生産見込み数量の概ね1割が上場される。

■ 国内産大豆の主な流通経路



IV 小豆・いんげんをめぐる情勢

1 北海道の小豆・いんげんの位置づけ

- 北海道は、国内最大の豆類産地であり、特に小豆、いんげんについては、その9割が本道において生産されており、あんこや和菓子、煮豆などの原材料であることから実需者サイドからの安定生産の期待が大きい。
- 大豆を含む豆類は、輪作体系に組み込まれた基幹作物であり、特に熟期の早いいんげんは、秋まき小麦の前作として栽培されるなど、北海道畑作農業の維持に欠かせない作物である。

■ 全国における北海道の位置づけ（令和4年（2022年）産）

（単位：ha、t）

区 分		北海道 (A)	全国 (B)	A/B (%)
小 豆	作付面積	19,100	23,200	82.3
	生産量	39,300	42,100	93.3
いんげん	作付面積	5,780	6,220	92.9
	生産量	8,090	8,530	94.8

資料：農林水産省「作物統計」

■ 畑作4品に占める雑豆作付面積の割合（令和3年（2021年）産）

（単位：ha、%）

区 分		北海道	十勝	オホーツク	上川	空知
畑作物作付面積		325,712	120,827	74,490	42,273	39,935
豆 類	作付面積	67,865	29,356	5,540	9,302	10,590
	割 合	20.8	24.3	7.4	22.0	26.5
小 豆	作付面積	19,000	12,931	1,733	722	288
	割 合	5.8	10.7	2.3	1.7	0.7
いんげん	作付面積	6,650	5,425	727	335	2
	割 合	2.0	4.5	1.0	0.8	0.0

資料：農林水産省「作物統計」、農産振興課調べ

注：畑作物作付面積は、麦類（小麦、大麦）、豆類（大豆、小豆、えんどう、いんげん）、てん菜、馬鈴しょ、そば、なたねの合計

2 小豆・いんげんの生産状況（1）

- 令和4年（2022年）産の小豆の作付面積及び生産量は、新型コロナウイルス感染症の影響により需要が減少する中、19,100ha、39,300tとなり、前年並の生産量となった。
- いんげんは、豆類の中でも栽培に手間がかかることや気象条件によって単収が変動する傾向にあり、令和4年（2022年）産の作付面積は5,780haと前年より減少したが、生産量は8,090tと増加した。
- 需要の維持・拡大には安定生産・供給が必要であり、農業団体では、作付面積の拡大を推進。

■ 道内の作付面積の推移

（単位：ha）

区分		H17	H22	27	29	30	R1	2	3	4
小豆	指標面積(A)			22,000	20,000	22,000	22,000	22,500	22,100	22,100
	作付面積(B)	28,200	23,200	21,900	17,900	19,100	20,900	22,100	19,000	19,100
	差(B-A)			▲100	▲2,100	▲2,900	▲1,100	▲400	▲3,100	▲3,000
いんげん	指標面積(A)			9,870	9,100	8,930	7,038	7,061	7,278	7,217
	作付面積(B)	10,000	10,800	9,550	6,630	6,790	6,340	6,880	6,660	5,780
	差(B-A)			▲320	▲2,470	▲2,140	▲698	▲181	▲618	▲1,437

資料：指標面積は北海道農協畑作・青果対策本部委員会資料、作付面積は農林水産省「作物統計」

■ 生産量の推移

（単位：t、kg/10a、%）

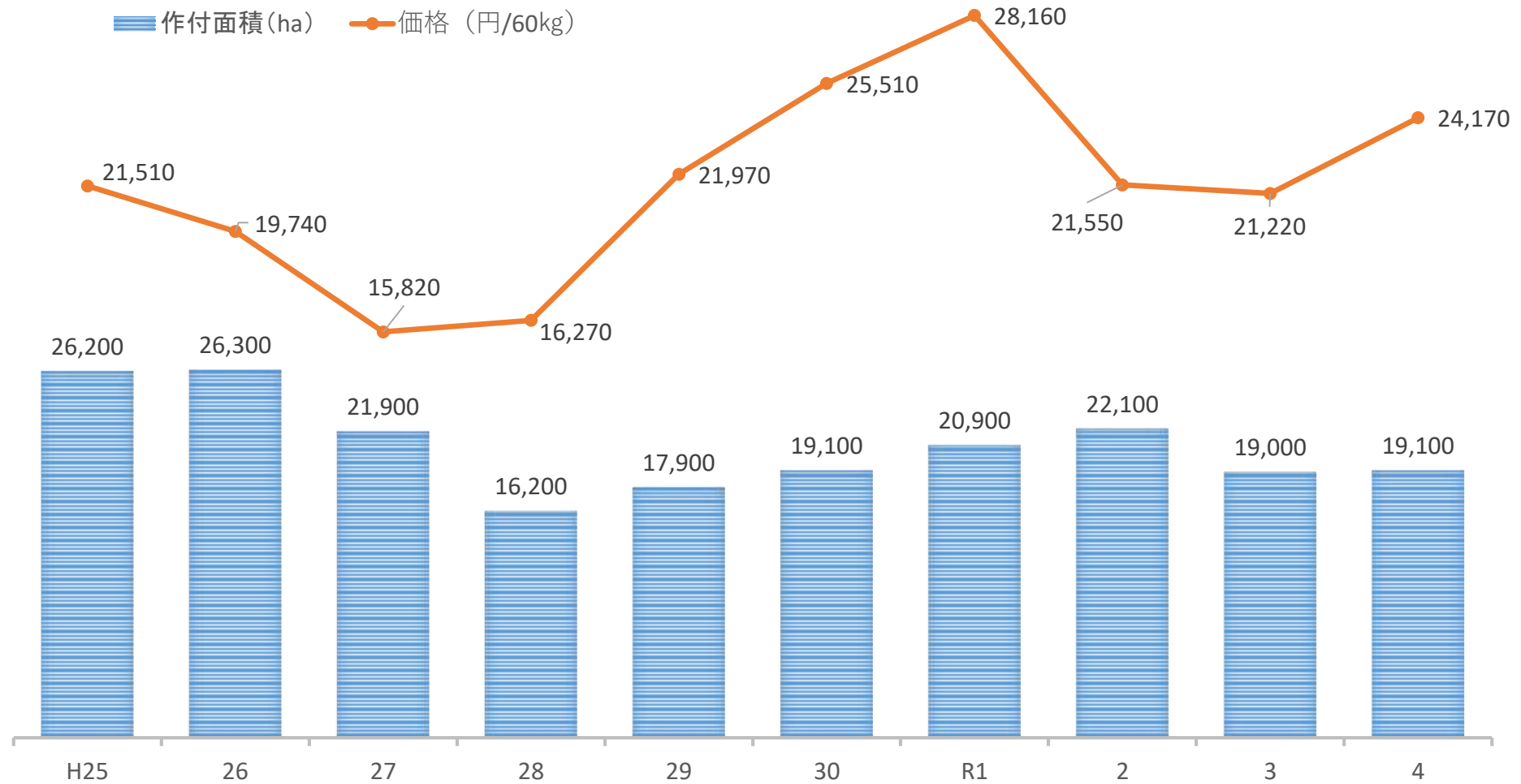
区分		H17	22	27	29	30	R1	2	3	4
小豆	全道	69,600	48,700	59,500	49,800	39,200	55,400	48,600	39,100	39,300
	単収	247	210	272	278	205	265	220	206	206
	平均収量対比	117	88	113	115	80	106	87	83	88
いんげん	全道	24,600	20,700	24,800	16,400	9,230	12,700	4,680	6,860	8,090
	単収	246	192	260	248	136	200	68	103	140
	平均収量対比	122	88	139	139	72	102	34	58	93

資料：農林水産省「作物統計」

2 小豆・いんげんの生産状況（2）

○ 小豆・いんげんは、豊凶などにより、作付面積、販売価格が大きく変動。安定的な生産と取引価格を目指し、複数年での契約栽培を進めることが必要となっている。

■ 道内の小豆作付面積と価格



資料：農林水産省「作物統計」

3 小豆・いんげんの流通・販売

- 令和4年（2022年）の小豆、いんげん60キログラム当たり農家販売価格は、輸入品からの切り替えや新商品への利用など、需要回復の動きも見られたことから、小豆2万4,170円、金時2万7,380円、手亡2万2,680円と前年を上回った。
- 令和3年（2021年）の輸入価格は、穀物価格の高騰を受け、買付価格が上昇したことなどにより、60キログラム当たり輸入価格は小豆10,724円、いんげん8,939円と前年を上回った。

■ 農家販売価格の推移

(単位：円/60kg)

区分	H24	25	26	27	29	30	R1	2	3	4
小豆（普通小豆）	22,470	21,510	19,740	15,820	21,970	25,510	28,160	21,550	21,220	24,170
金時（3等程度）	22,240	22,050	21,620	18,490	22,970	24,230	26,980	23,720	25,540	27,380
手亡（3等程度）	16,780	16,960	16,860	10,940	16,550	20,210	23,090	17,970	18,550	22,680

資料：農林水産省「農作物価統計」

■ 輸入価格の推移

(単位：円/60kg)

区分	H24	25	26	27	28	29	30	R1	2	3
小豆	6,159	7,777	9,663	10,648	9,454	8,542	8,074	8,855	9,142	10,724
いんげん	6,185	7,773	8,991	10,084	8,615	8,280	7,697	8,036	8,341	8,939

資料：公益財団法人日本豆類協会「雑豆に関する資料」

■ 輸入量の推移（暦年）

(単位：t)

区分	H24	25	26	27	29	30	R1	2	3	4
小豆	26,859	24,342	26,003	20,359	21,275	21,357	31,850	25,517	22,676	29,857
うち2次関税分	83	118	1	0	226	936	1,138	1,566	2,738	2,986
いんげん	12,574	13,415	11,904	11,857	11,086	11,920	13,374	12,618	12,030	12,496
うち2次関税分	121	10	104	118	293	515	382	265	242	513
調製した豆（加糖）	77,647	73,979	71,889	66,335	60,548	61,335	61,408	60,732	55,591	45,348

資料：公益財団法人日本豆類協会「雑豆に関する資料」

3 小豆・いんげんの関税割当制度

- 一定の輸入数量（割当数量）の枠内に限り、無税又は低税率（一次税率）を適用して需要者に安価な供給を確保する一方、割当数量の枠を超える輸入分については、比較的高税率（二次税率）を適用することにより国内産業の保護を図る仕組み。
- 令和4年（2022年）の輸入量は、小豆2万9,857トン、いんげん1万2,496トン、関税割当制度の適用を受けない加糖あん（調整した豆（加糖））は4万5,348トンとなった。

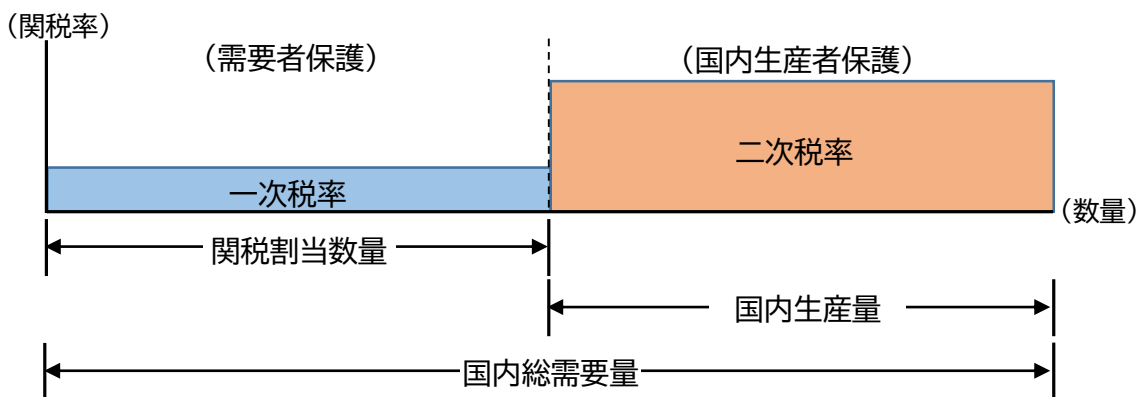
■ 関税割当数量の推移

（単位：t）

区分	25	26	27	28	29	30	R1	2	3	4
小豆	27,000	27,200	18,600	20,200	22,700	25,580	29,960	22,200	23,100	31,299
いんげん・その他	35,700	30,900	28,400	32,400	32,400	34,300	32,400	26,200	28,500	32,800
えん豆・そら豆	53,600	58,200	69,300	63,700	61,200	56,420	54,179	68,496	59,838	45,488
新規需要枠									4,862	6,713
沖縄枠	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700
合計	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,239	120,596	120,000	120,000

資料：農林水産省

■ 関税割当制度の仕組み



資料：農林水産省「関税割当制度」

4 道産小豆・いんげんの品種

○ 品種別の作付面積は、小豆ではエリモショウズ、きたろまんが大半を占め、いんげんでは、大正金時、福勝などの金時類が大半を占める。

■ 道内における主要品種作付面積の推移

(単位：ha)

区分		H26	27	28	29	30	R1	2	3	
小豆	普通小豆	エリモショウズ	8,852	7,045	5,499	5,780	5,906	5,962	5,971	4,127
		エリモ167				42	487	1,749	2,858	3,029
		きたろまん	8,140	7,605	5,491	6,236	7,164	8,062	8,578	8,238
		きたのおとめ	4,540	4,329	2,991	3,052	2,759	2,406	2,189	1,542
		しゅまり	947	781	467	536	498	452	438	365
		きたほたる	42	43	31	25	17	20	63	63
		きたあすか	488	290	43	43	32	15	18	14
	大納言	とよみ大納言	2,150	1,141	1,141	1,385	1,446	1,421	1,300	1,264
		ほまれ大納言	168	87	49	147	122	154	121	37
		アカネダイナゴン	358	138	79	151	133	129	152	67
いんげん	金時	大正金時	2,572	2,879	2,974	2,519	2,752	2,478	2,688	2,673
		福勝	1,825	1,954	1,868	1,445	1,433	1,238	1,237	1,264
		福良金時	617	630	703	590	641	605	476	305
	手亡	雪手亡	1,914	2,361	941	777	958	1,079	1,349	1,229
		絹てぼう	169	251	210	197	88	230	331	254
	その他	福うずら	63	76	75	99	84	53	43	70
		大白花	165	182	190	195	178	172	121	78
		洞爺大福	116	67	59	24	17	37	51	36
		福虎豆	101	69	72	48	13	32	30	0